

## 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画

### 第6回策定委員会 次第

- 1 日 時 令和6年12月4日（水）18時30分～
- 2 場 所 武蔵野商工会議所5階 第1、2会議室
- 3 議 題

#### （1）事務局より

- ①配付資料確認、傍聴者の有無について

#### （2）委員長挨拶

#### （3）議事

- ①第5回策定委員会 会議要録確認（資料1参照）

- ②第5次武蔵野市民地域福祉活動計画 中間まとめ案について（資料2参照）

- ・中間まとめおよび第5次活動計画冊子の構成について

- ③グループディスカッション

- ・中間まとめ案の文言確認について

※前回と同じグループで行います。

#### （4）その他

- ①懇親会の開催について（資料3参照）

- ②第7回策定委員会開催時間の変更について

懇親会を①のとおり開催させていただくため、開催時間を以下のとおり変更いたします。

開催日時：令和7年1月8日（水）18：00～19：30（旧 18：30～20：30）

場 所：変更なし（武蔵野市立商工会館5階第1、2会議室）

#### （5）次回日程

- ・令和7年1月8日（水）18時00分より 武蔵野商工会議所 5階 第1、2会議室  
（配付資料は裏面参照）

【配布資料】

資料1 第5回策定委員会議事要録

資料2 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画中間まとめ案

資料3 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会懇親会について

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会 今後のスケジュール

	日時	場所	内 容
第1回	7月3日(水) 18時30分～	市役所 412 会議室	概要説明
第2回	8月21日(水) 18時30分～	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	第4次地域福祉活動計画の 振り返り
第3回	9月11日(水) 18時30分～	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	計画内容の検討 地域懇談会の振り返り
第4回	10月2日(水) 18時30分～	武蔵野商工会議所 4階市民会議室	計画内容の検討
第5回	11月6日(水) 18時30分～	武蔵野商工会議所 4階市民会議室	計画内容および体系の検討 中間まとめの検討
第6回	12月4日(水) 18時30分～	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	中間まとめ完成 12月はパブリックコメント期間
第7回	令和7年 1月8日(水) 18時00分～	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	パブリックコメント等への対応
第8回	2月12日(水) 18時30分～	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	計画書(案)の検討
第9回	3月5日(水) 18時30分～	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	計画書完成

## 第 5 次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第 5 回）会議要録

- 1 日 時 令和 6 年 11 月 6 日（水）18 時 30 分から 20 時 30 分まで
- 2 場 所 武蔵野商工会議所 4 階市民会議室
- 3 出席委員 阿部、市川、和、熊田、見城、坂井、酒井、佐藤、鈴木、西田、馬場、  
福本、町田、宮田、山田、吉田（敬称略）
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 福島（常務理事）、田村（事務局長）、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 議 事

（1）事務局より

事務局より、配付資料の確認を行った後、主管課より武蔵野市地域支援課の林課長補佐が出席することを伝えた。また、資料 1 第 5 次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会 委員名簿に基づき、委員より辞任の申し出を受けたため、委員が交代する旨を伝えた。

（2）委員委嘱

事務局より、新たに委員となる方へ委嘱状を交付した。

**【委員】** 武蔵野市民生児童委員協議会において、委員の辞任を受けて私が委員となりました。不安はありますが、どうぞよろしく願いいたします。

（3）委員長挨拶

**【委員長】** 本日は出席いただきありがとうございます。今回の策定委員会より新たな委員を迎えています。策定委員会は佳境を迎えていますが、新たな委員の方にも是非お力を貸して欲しいと思います。最近、出生人口が 70 万人を割る可能性があるということが話題となっています。地域社会が変化する中で、少子高齢化に対してどのように向き合っていくかということは、第 5 次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第 5 次活動計画」）を策定する中での大事なテーマの一つになると思います。今後、子どもを増やすだけでなく、今の子どもがどれだけ幸せに生活できるかということも大事な視点となると思いますので、是非そのことを念頭に置きつつ、意見を出して欲しいと思います。

（4）議 事

- ①第 4 回策定委員会 会議要録確認 資料 2

【委員長】 **資料2 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第4回）会議要**

**録**を確認し、意見や訂正等があれば修正いたしますが、いかがでしょうか。  
なお、委員会終了後の校正依頼については、11月13日（水）までに事務局まで連絡ください。

※委員からの意見等はなかった。

### ②第5次武蔵野市民地域福祉活動計画 体系図案について

【委員長】 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画 体系図案について、事務局より説明をお願いします。

※**資料3**および**資料4**に基づき事務局より説明した。

【委員】 **資料4**の中に、住民のかかわり・つながりの公共・専門機関において、「広報支援」という文言がありますが、皆さんに知らせるといふ広報を支援するという意味でよろしいですか。

【事務局】 直接広報するという意味合いもありますが、普段市民が通る場所にチラシを置く等の広報を行う上での働きかけという意味があります。例えば、三鷹駅へチラシを置くことについて、住民が働きかけることは難しいという意見を第4回策定委員会においていただきました。そのような場合、行政や専門機関、当会がサポートを行う等、広報に関する働きかけをするという意味で「広報支援」という言葉を用いています。

### ③グループディスカッション

【委員長】 グループディスカッションの実施方法について、事務局より説明をお願いします。

※**資料5**に基づき事務局より説明した。

【委員長】 各グループにてグループディスカッションをお願いします。

（グループワークを実施した後、各グループで出た意見について発表があった。詳細は**別紙 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）グループワーク報告**を参照。）

【委員長】 様々な意見を出してもらい、ありがとうございました。事務局からの話の通り、今回のグループディスカッションにおける意見を踏まえ、第5次活動計画の冊子における形式および中身について改めて見直しを行います。ただし、短い期間の中での見直しとなるため、皆さまからの意見を十分に反映できない部分もあることを予め了承してもらいたいと思います。

(5) その他

①パブリックコメント募集概要について

※資料6および資料7に基づき事務局より説明した。

【委員】 資料6の1 意見募集の中で Google フォームによる回答とありますが、回答の URL に遷移する二次元コードはどの媒体に掲載するのか教えてください。

また、資料7については word 形式での掲載を行う予定か教えてください。

【事務局】 二次元コードについては広報媒体での掲載および SNS 上での掲載を予定しています。資料7については当会のホームページに word 形式でのデータを掲載する予定です。

②懇親会の開催について

※資料8に基づき事務局より説明した。

(6) 次回日程

・12月4日(水) 18時30分より 武蔵野商工会議所 5階 第1、2会議室

【委員長】 他になければ、これで第5回の策定委員会を終わります。

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）  
グループワーク報告

グループA 情報発信			
阿部 春彦	和 秀俊	宮田 恵	吉田 真也
(職員) 横山、林			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の取り組み内容とも横断している部分が多い。土台にもなっている。中々分けづらい。</li> <li>・ここでいう情報発信はいかに必要な人に情報を届けるかであり、住民のかかわり・つながりにかかっているものはあくまでも手段なので、明確に分けても問題ないのではないか。しかし、全体に情報発信という言葉が多く記載されているので、整理は必要。</li> <li>・掲示板などの紙媒体の方が、情報弱者(高齢、障がい、外国人など)には有効的ではないか。例)大学の食堂の掲示板</li> <li>・今ある広報媒体をいかにわかりやすくするか考えても良いのではないか。 例)動画-字幕・ふりがな付きにする</li> <li>・障がい者だけでなく、高齢者も手話ニュースをよく観ている。</li> <li>・やさしい日本語を基本に作成すれば、だれでも見やすいものになるのではないか</li> <li>・「地縁」や「テーマ型」という言葉はわかりづらいので、別の言葉にするか説明書きが必要。</li> </ul> <p>【計画書の構成や作り方について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前計画から継続して取り組むものと新しい取り組みを分かりやすく表記する。</li> <li>・概要版(市民向け)と本書(関係者向け)を分けて作成してはどうか。</li> <li>・専門用語をどうわかりやすく表現するか。</li> </ul>			
グループB 住民のかかわり・つながり			
市川 順子	坂井 健司	鈴木 庸子	馬場 武寛
(職員) 佐々木、後藤			
<p>【体系図の構成について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念、基本目標2つ、取り組み5つというシンプルな構成は良いと思う。</li> <li>・情報発信と相談機能に関する内容が充実することで、市民がつながりたい時につながることができると思うので、基本目標1の取り組みはとても重要だと思う。</li> <li>・「取り組み」に“しくみをつくる”という言葉がいくつか出てくるが、実態感がないように感じるため、具体的なアクションを想起できるよう言い換えた方が良い。Bグループの取り組みは「身近な地域で自然につながりをつくる」が良い。</li> <li>・実施主体の住民サイドを示す地縁やテーマという括りはわかりづらい。地縁は地域とのつながりが薄い人や転入者にとっては連想しづらい。また、テーマ型でま</li> </ul>			

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）  
グループワーク報告

<p>とめられているボランティア・NPO・商店は全く属性が異なるし、一括りになっている感じがする。例えば、「個人」「団体」「公共・専門機関」「社協」等の分け方はどうか。その中では、団体は子育て、環境、教育、高齢者等、団体側が我がことのように想像しやすいように書かれていると良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画書を自ら手に取る人はおおよそ「感度が高い人（すでに何かしらの活動に関わっている人）」だと思うので、まだ興味のない人に届くように、計画書のデザインなどよりは発信に力を入れてほしい。</li> </ul> <p><b>【地域に興味のない人に対するアプローチ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みやアクションの中に、興味のない人に対するアプローチは書いておかなくて良いのか。そのようなまだ関わっていない人の感度の育て方についても書いておいた方が良い。</li> <li>・個人が隣に住んでいる人を気にかけてたり、商業者がお店に来た人の変化に気づいたりなど、感度が育つと自然に参加できるようになると思う。</li> <li>・商業者は、これまで商売するために地域とのつながりを大切にしてきたが、最近インターネットの普及等により、地域とつながらなくても商売ができるため、地域とつながっていないお店もある。一方で、地域の情報をもらって感度が上がってくると、住民の変化に気づけるようになると思うので、地域活動に参加を促したい人や団体に「どうつなぐとアクションにつながるのか」を想像してアクションを書くのが大事だと思う。</li> <li>・多くの人が地域に関心を持つ社会にしていくには、6年間の計画の中だけでは達成できないと思う。ライフスタイルの変化や価値観の変化、テクノロジーの変化、マスメディア、子どもの教育の面を見据えて、もっと長期的なビジョンに向けた何かを書いておくべきだと思う。</li> <li>・実施主体「個人」の中には、気軽に始められる「近所を散歩する」「あいさつをしてみる」「最寄りの施設（コミセンなど）に行ってみる」などのアクションが書かれていると参加するハードルが下がる。</li> </ul> <p><b>【さまざまな段階の団体が参加できるような意識】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みやアクションの内容によっては、すでに課題をとらえ、取り組みを進めている団体もある。新しい取り組みを「作る」ではなく、「見直す」「さらに育てる」「成功している取り組み事例をお互いに共有する」ことが必要。</li> </ul>			
<b>グループC 担い手</b>			
熊田 博喜	見城 学	西田 順子	町田 敏
（職員）田村、木原			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地縁とテーマ型に記載されている内容がほとんど同じなので、共通するものがあったても良いが重なり過ぎない方が良いのではないか。</li> </ul>			

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）  
グループワーク報告

<p>→（地縁）入りやすさ、楽しさ（テーマ型）理念や理想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地縁には、定年前後の男性の活躍のきっかけや場について追記したい。</li> <li>・テーマ型には、自分の得意なこと（専門知識）を活かすことを追記したい。</li> <li>・地縁とテーマ型に記載されている内容は、活動の中身と仕組みに分けられると思うので、カテゴライズした方が見やすい。</li> <li>・その後の活動が入口とは別のものになることもあるので、色々な切り口があって良いことがわかるよう、地縁とテーマ型をスムーズに移行できるような表の見せ方をしたい。</li> <li>・公共・専門機関と市民社協には、活動者の活動やモチベーションをバックアップする仕組み（助成金・イベント・横の連携）を期待したい。</li> </ul> <p>【計画書の体系について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横串的な考え方が最も重要だと思うので、横並びに見られる表の作りは良い。</li> <li>・関心がない人に見てもらえる工夫が必要。</li> <li>・主催者の思いだけでの発信は偏りがちなので、そうならない言葉選びが大事。</li> <li>・基本目標に「武蔵野」と入れているが、読み手が込められている意味や今までの自身の活動への誇りを感じられるよう、もう一工夫欲しい。</li> </ul>			
<b>グループD 相談機能</b>			
酒井 陽子	佐藤 清佳	福本 千晴	山田 剛
（職員）三藤、河合			
<p>【計画書の体系について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後計画の冊子を作る際、「インフォーマル」等の専門的用語は普段使わないので、分かりやすい表現を（）で言葉の後ろに表記したり、脚注がある方が良い。用語集にも説明があるとより分かりやすい。</li> <li>・今まで地域活動等に参加していないが、コロナ禍を経て新しく活動に参加したいと思う方にも読んでもらえるような内容の計画書になると良い。</li> <li>・グループワークの前に委員より質問があった「広報支援」という言葉について、「広報の支援」と言葉を付け加えると意味合いが分かりやすいのでは。特に文言は人によって解釈が変わるので、気を付けた方が良い。</li> <li>・計画書のデザインはどうなるのか。資料4の細かい字の表は最終的にどのような形で計画書に載せるのか。 ⇒デザインについては今後の策定委員会にて別途検討する予定。なお、体系図の見せ方は資料3の体系図のイメージがベースになると考えている。</li> <li>・前回計画に比べ、シンプルになることは市民がこの冊子を活用するという意味でとても良いと思う。</li> <li>・今回の計画では基本目標と取り組みという枠組みだと思うが、前回計画での基本</li> </ul>			

目標と小目標の他に重点的な取り組みを枠組みとしていた。今回の計画と前回計画との枠組みの違いを教えて欲しい。

⇒前回計画では基本目標を横断する形で重点的な取り組みを示したが、小目標と重点的な取り組みの両方で同じ内容を示していた。それにより、初めて計画冊子を見た人が見て分かりづらいものとなっていたこと、また計画における評価をする中で、同じ内容である小目標と重点的な取り組みをどう評価するのが課題となってしまうていた。そのため、今回の計画ではシンプルかつ市民の方が見て分かりやすい枠組みとして、基本目標と取り組みとした。

【「福祉の情報」と「地域の情報」について（相談機能）】

・基本目標1に「福祉の情報」という言葉があるが、具体的な取り組みの内容には「地域の情報」に対することしか記載がされていない。

また、基本目標1の相談機能の具体的な取り組みである「困った時に助け合えるしくみをつくる」について、情報発信の取り組みと同じ枠組みとしているが、同じ枠組みとしては結びつかないのでは。どちらかという、相談機能は基本目標2に分類されるのでは。

⇒社協としては情報発信と相談機能を踏まえ、基本目標1を作っている。その上で、「福祉の情報」は支援が必要な方への情報提供という意味での相談機能という意味、「地域の情報」とは単純に「地域でこんな活動が行われている」という情報提供をするという意味として捉えている。「地域」という枠組みだけでは足りず、「福祉」という枠組みでも足りない、それぞれ「地域の情報」と「福祉の情報」を併記した形で目標を立てた。

⇒一般的な福祉のイメージではそのような考えを持つことが難しいし、「福祉」を狭い意味で捉えている方も多いと思う。また、「福祉の情報」と「地域の情報」の並び順にそこまで意図は持っていない。

・「福祉」は本来自分の身の回り（社会保障等）で当たり前のようにあるはずだが、それが一般の方では分からない状況。どちらかという、困ったときに支援してもらえる「人」や「しくみ」という意味合いという認識の方が一般的には強く、それが「福祉」を説明する上でも重要な部分ではないかと考えている。私は皆が必要な「福祉」があった上で、その先に「地域」の活動が出てくるという認識だが、社協としてはどちらを軸足に置くことが重要だと捉えている。

・社協として「福祉」と「地域」に関する説明を市民に伝える際、このような並び順で考えており、困っている人を助けたいので「福祉の情報」や「地域の情報」を差し上げますということを伝えるためにも、個人的には「福祉の情報」と「地域の情報」の並び順はとても重要だと考えている。

・基本目標2について「つながりたい時に…」とあるが、本人自身はつながりたくないと考えているが、実際にはつながっていた方が良い人がいるとして、そのよ

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）  
グループワーク報告

うな人をどう表現すべきか。

⇒前回の策定委員会にて話した際、自分では助けて欲しくない人がいた時に、近所のおせっかいな方等がいたら良いという話が出ていた。特に相談機関や専門機関の方だとハードルが高いため、そのような方が話す方が良いのではということだった。そのため、「しくみ」として作るのではなく、「寄り添う」形での対応が良いと思う。

- ・資料4の情報発信の地縁のつながりの中で、「障がい者等の情報弱者が…」という文言と住民のかかわり・つながりの地縁のつながりの中で「外国人や障がい者など地域の情報が…」とあり、情報が届きにくい人が限定的になっているが、私はそれだけではないと思う。また、自分がそのような状況に置かれることもあると思う。そのため、対象を限定せずに幅広い範囲で括っても良いと思う。例えばMCA無線が聞こえないという方も情報弱者にあたると思う。中にはSNSやメールから情報を受け取ることが出来る方もいる。支えようとしている方が支えてもらう立場になることもある。

⇒今後、コロナ禍のように急激に「福祉の情報」が必要な状況となった場合、それを私たちが対応していくような書き方にした方が良い。

- ・相談機能の場を設けた時に、どう制度につなげていくのかという問題もあるが、話している中ではどのように相談機能をつなげていくかという意見が多かった。また、大多数の人は自ら情報を取りに行くことができるので、その情報をより収集しやすくするというのは大事だと再認識した。そのため、AとDを基本目標1に分類した。

⇒三鷹駅のラックの事がグループワークの話題に出てから、何がどのくらい置かれているか、より気になるようになった。

⇒マルシェではさりげなくチラシを置いておいて、欲しい人は黙ってもらっていくという手法を取っている。定期的に地域や福祉の情報を収集できる場所があると良いと考えている。

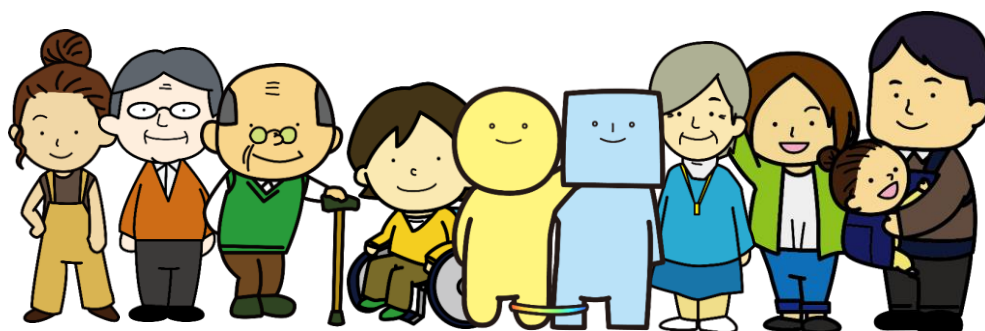
- ・以前の策定委員会において、地域社協が普段イベントをしているが、本来の目的ではない形でのイベントとなっているという話があったが、原点に立ち戻って誰でも来られるような居場所やサロンを作るという活動をした方が良いと考えている。そのような活動から市民の相談につながる場合もある。私は在宅介護をしている方のお話を聞くサロン活動を15年続けているが、そこではノートを取らず、何でも話し合い、共感をしましよという場にしている。その活動で、何か学びたい、どこか行きたいということになった場合、皆で一緒に行っている。また、サロン活動では、奇数月では専門機関への相談の場としており、偶数月ではフリートークの場として活動している。緊急の場合は活動とは別に専門機関へつなげている。

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第5回）  
グループワーク報告

- ⇒在支がある地域では在宅介護の方が話し合えるような場が少なくともある。  
⇒そのような活動とは少し違うが、市ではオレンジカフェのような活動も始めている。
- ・あまりにも距離感が近すぎると相談がしにくいという場合もある。例えばご近所が集う居場所では日常的な会話はできるが、深い話はしにくいのではと思う。そのため、テンミリオンハウスのように第三者が相談に乗る場がある方がとても良いと思う。
  - ・中には他市から武蔵野市に相談があることもある。
  - ・なんとなく地域がつながっていると良い場合もある。例えば一緒に活動をしている仲間から実はひきこもりの子どもがいることを相談され、そこから関係機関につながるという場合もあると思う。
  - ・本来は相談を受けた方と関係が深くなると、友人と相談機関との境目が無くなりがちだと思うが、民生委員の方はその切り替えができるのでとても素晴らしいと思う。
  - ・相談を受けた際、その相談者が希望しない場合も必要性を感じた場合は在支に情報共有することもある。
  - ・子どもを守る家のように、商店会の方が困っている人をすぐ助けられるような関係性があると良い。昔はその機能を警察の交番の方が担っていた。
  - ・世代によって綺麗に情報収集の仕方が分かれている。
  - ・地域活動の中で自宅のポストへニュースレターをポストイングしているが、誰も見てくれていない。前回開催したご近所のつどいでは、参加した市民のほとんどが地域社協を知らないという方だった。
  - ・FM むさしのやケーブルテレビから広報するのはどうか。  
⇒特定の年齢層は見聞きすると思うが、普段そのような情報の取り方をしない方も居ると思う。また、年配の方は市報で情報を収集していると思う。  
⇒年代に合わせて情報発信の仕方を変えていくことが大切では。
  - ・地域で居場所をつくったとしても、特定の人に来るようになるだけではと考えることもある。
  - ・社協にて3カ月を通じて地域活動を知る講座を作るのはどうか。  
⇒高齢者総合センターにおいても趣味や学びのための講座がある。
  - ・本人が自発的に情報を収集する場合と本人が収集せずに周りの方（家族等）が考えて情報を収集する場合もある。

# 第5次武蔵野市民 地域福祉活動計画

## 策定に向けた 中間まとめ



令和6年12月〇日

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会

# I 地域福祉活動計画策定までの流れ

## 1 地域福祉活動計画とは

地域福祉活動計画は、社会福祉協議会が呼びかけ、住民や地域において社会福祉に関する活動を行う者、社会福祉を目的とする事業（福祉サービス）を運営する者が相互に協力して策定する「地域福祉の推進」を目的とした民間の計画です。策定を通じて地域課題の明確化とその解決のための協議を行い、解決に向けた具体的な行動と関係機関・団体の役割分担が盛り込まれます。

武蔵野市では、現在第4次武蔵野市民地域福祉活動計画の計画期間（平成31年度～令和6年度）にあたり、今年度は第5次武蔵野市民地域福祉活動計画の策定を進めています。

## 2 計画の期間

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画の期間は、令和7（2025）年度から令和12（2030）年度までの6年間とします。

年度	2019 [平成31]	2020 [令和2]	2021 [令和3]	2022 [令和4]	2023 [令和5]	2024 [令和6]	2025 [令和7]	2026 [令和8]	2027 [令和9]	2028 [令和10]	2029 [令和11]	2030 [令和12]	
市	武蔵野市第3期健康福祉総合計画 (第5期地域福祉計画 など)						武蔵野市第4期健康福祉総合計画 (第6期地域福祉計画 など)						
市民・社協	第4次武蔵野市民地域福祉活動計画						策定	第5次武蔵野市民地域福祉活動計画					
	市民社協発展・強化計画						第2次市民社協発展・強化計画（仮称）						

## 3 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会

本計画の策定に向けて、16名の第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会委員（以下「策定委員」）にご協力いただき、以下のスケジュールで進めています。

## 4 策定委員会の開催状況

	日時	場所	内容
第1回	7月3日（水）	市役所 412 会議室	概要説明
第2回	8月21日（水）	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	第4次地域福祉活動計画の振り返り

第3回	9月11日(水)	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	計画内容の検討 地域懇談会の振り返り
第4回	10月2日(水)	武蔵野商工会議所 4階市民会議室	計画内容の検討
第5回	11月6日(水)	武蔵野商工会議所 4階市民会議室	計画内容および体系の検討 中間まとめの検討
第6回	12月4日(水) 18時30分～	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	中間まとめ完成 12月はパブリックコメント期間
第7回	令和7年 1月8日(水) 18時00分～	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	パブリックコメント等への対応
第8回	2月12日(水) 18時30分～	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	計画書(案)の検討
第9回	3月5日(水) 18時30分～	武蔵野商工会議所 5階第1、第2会議室	計画書完成

策定委員会は、武蔵野市民社会福祉協議会が定める「第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会傍聴基準」に基づき、傍聴が可能です。希望される方は、各回前日16:00までに、住所・氏名・電話番号を添えて、電話またはメールで、お申し込みください。

[傍聴受付窓口]

武蔵野市民社会福祉協議会 電話 0422-23-0701 メール [shimin@shakyou.or.jp](mailto:shimin@shakyou.or.jp)

## II 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画の取り組みと課題

### 1 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画の取り組み状況

#### (1) 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画を振り返って

平成31年度から6年間で取り組んだ第4次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第4次活動計画」）は、「みんなが主役 ささえあいのまちづくりをめざして」の基本理念のもと、「地域をささえる人づくり」「人がつながる地域づくり」「たすけあいのしくみづくり」の3つの基本目標と、地域課題へのアプローチ方法として4項目の重点的な取り組み（①居場所づくりの展開 ②さまざまな相談の場と機能の充実 ③地域社協(※)の発展 ④地域福祉コーディネーター(※)（仮称）の役割や機能の整理）を設定して、武蔵野市の地域課題と向き合い、地域づくりを進める予定でした。しかしながら、計画期間の大半が、新型コロナウイルス感染症の拡大と重なったことで、対面による地域活動が大幅な制限を受け、さらに生活困窮や孤立等の課題が浮き彫りになるなど、活動を模索しながらの6年間となりました。そのような状況下であっても地域の方の創意工夫によって新たな居場所等の地域実践が生み出され、市

民社協もそれを支えてきました。第4次活動計画の総括は、「第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会」のご協力のもと、「第4次武蔵野市民地域福祉活動計画 6年間のふりかえり報告書(以下「6年間のふりかえり報告書」)」にまとめていますので、詳細は6年間のふりかえり報告書をご参照ください。

『第4次武蔵野市民地域福祉活動計画 6年間のふりかえり報告書』は、  
右の二次元コード(※)からご覧いただけます。



(※)地域社協は概ね小学校区を活動範囲とする、地域住民に福祉への関心や理解を広げ、隣近所で困っていることがあればお互いに助け合えるような関係づくりをしていくための住民組織です。詳細は、右の二次元コードから市民社協ホームページをご参照ください。



(※)地域福祉コーディネーターとは、地域の困りごとの相談や支援の必要な人への見守り体制を築くため、地域のつなぎ役として、各種団体や専門職、ボランティアと連携して、地域福祉の推進を図る仕事です。武蔵野市では、この役割を市民社協の地域担当職員が担うこととしています。

(※)二次元コードは、文字や数字などのデータを縦と横に配置した点(ドット)の図形で表示する技術。スマートフォン等の機械で読み取って、インターネット上の情報に直接アクセスすることができる。

## (2) 各目標・取り組みの達成に向けて取り組んできたことと課題

### 基本目標1 地域をささえる人づくり

この基本目標を達成するための取り組みとして「地域の福祉情報・ボランティア情報をわかりやすく発信する」「より多くの人が地域の福祉に関心をもつ機会を増やす」「地域活動の担い手を増やす」の3つを定めました。

#### 〔取り組んできたこと・今後の課題〕

- 全部で13ある地域社協のうち、11の地域社協でX(旧Twitter)アカウントを開設し、現在も取り組んでいる。市民社協でも、ホームページのスマートフォン対応、Facebook、X、Instagramによる発信などデジタル媒体での広報に取り組んできた。コロナ禍もあり、SNS(※)等を活用した取り組みが急速に進んだ一方で、「SNS等のデジタル媒体が苦手な人」へどう届けるかなどの課題もあり、今後情報によって媒体を使い分けたり、より多くの媒体による情報発信を行う必要がある。
- 多くの地域団体でわかりやすい表現を意識して広報紙等の作成に取り組んだ。また複数の地域社協がネット印刷によりカラー化したり、プロボノ(※)を活用してデザインを見直すなど、関わっていない人にもわかりやすい表現を目指して見直しに取り組んでいる。情報を見た人からの問い合わせなどもある一方で、「武蔵野市地域福祉に関するアンケート調査報告書(令和5年3月)」では、「地域活動情報・ボランティア活動情報のわかりやすさ」「WEB媒体による地域活動情報・ボランティア情報の提供」など、いくつかの項目において、満足度50%を達成度の指標としていたが、いずれも50%には至らなかった。

- 地域社協が転入者の取り組みを検討する際に、「役員を押し付けられそう」などの理由から地域社協に参加しづらいという声があることを踏まえ、「すぐに役員に誘わない」「単発的な手伝いも可」と強調して誘うことに取り組んだり、役員体制を見直したりした。
  - 近年の傾向では、地域活動に参加する動機として「自分が楽しめるか」を考えている人もいる。受け入れる側の取り組みとして、「行ってみたら楽しかった」と感じてもらえるような募集の仕方も担い手を増やすうえで考えるべき課題である。
- (※) SNSとは、ソーシャルネットワークサービスの略称で、インターネット上で利用者同士が文章や写真、動画などを投稿して、利用者同士がコミュニケーションを行うためのサービスです。
- (※) プロボノとは、社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや経験を活かして取り組む社会貢献活動。

## **基本目標2** 人がつながる地域づくり

この基本目標を達成するための取り組みとして「顔が見える関係をつくる」「人と人とが繋がる場をつくる」「人や団体同士をつなげる」の3つを定めました。

### **〔 取り組んできたこと・今後の課題 〕**

- 地域社協では、「丁目活動」「ご近所のつどい」のような範囲の狭いエリアを対象とした活動や、防災・防犯のような世代を問わず関心を持ちそうなテーマについて、各地域で工夫して実施している。今後は、顔が見える関係を避ける人もどのように地域に巻き込んでいくかの検討も必要である。
- 市民社協では、市内にある障がい者団体や双子等を育てる家族の会、転勤族の妻の会、日本語を母語としない子育て家庭を支援する団体等、既存の団体の活動を把握し、必要な人からの相談があれば、紹介できるように取り組んでいる。今後は、当事者の声を取り組みにつなげるための調査などについても検討する必要がある。
- 市民社協では、令和5年度より市の様々な相談支援機関が集まる総合支援調整会議に参加し、各機関と共に包括的な相談支援体制づくりを進めている。8050問題やヤングケアラー問題に象徴される複合的な課題への対応には、支援機関に加え、地域団体・関係機関同士の連携も必要となるため、今後も体制づくりの推進が必要である。

## **基本目標3** たすけあいのしくみづくり

この基本目標を達成するための取り組みとして「地域での孤立を防ぐ」「地域の福祉活動・ボランティア活動を支える」の2つを定めました。

### **〔 取り組んできたこと・今後の課題 〕**

- 地域社協をはじめとする地域活動団体は、サロン活動、丁目活動、居場所づくり等の日頃から顔見知りを増やす取り組みを実施しており、参加者の様子が普段と違っていたり、支援の必要がある場合には関係機関に連絡している。
- 市民社協では、困っている人の生活に近い場所で相談を受けるため、令和5年度より市内全域出張相談会「ちょこっと出先で生活相談」を開始した。会場は、市内の事業所や団地の集会所等の協力

により、その一角をお借りして開催している。また、実施にあたって、各地域社協の互助のしくみにより、エリア内で支援が必要な人がいれば、つないでもらう等の協力をいただいている。

- 市民社協のボランティアセンター武蔵野では、生活上の困りごとをボランティアにより支援する仕組みとして「ねこの手ボランティア」事業を行っている。

### **重点的な取り組み1 居場所づくりの展開**

この取り組みを行うにあたり、年齢や対象を限定せず、誰もが参加できる住民同士の交流の場を増やすことを目標としました。

#### **〔 取り組んできたこと・今後の課題 〕**

- 市民社協では世代や対象を限定せず近所の人が集うことを目的とした「身近な地域の居場所づくり助成事業」を推進してきた。平成28年の事業開始から、令和6年度までで18団体（休止・助成事業からの卒業をした団体含む）の立ち上げ支援を行った。
- 居場所の立ち上げ支援にあたり、既存の建物の有効活用や運営の担い手の増加を目指して、居場所づくり学習会・交流会の実施や、立ち上げ事例をまとめた冊子を作成した。今後の展開として、振り返りの中で、「誰もが集まれるものばかりではなく、対象者や内容に特徴のある居場所があってもよい」という意見もあり、多様なニーズにどう対応していくかが課題である。

### **重点的な取り組み2 さまざまな相談の場と機能の充実**

この取り組みを行うにあたり、相談機関に電話や来所で問い合わせをすることにハードルの高さを感じる人や、どこに相談すべきかわからない人が、少し気になることや知りたいことを話したり、聞いたりできる場や機能の拡充を進めてきました。

#### **〔 取り組んできたこと・今後の課題 〕**

- 武蔵野市では市役所内に福祉総合相談窓口が開設されたり、市民社協では地域担当職員を中心とした困りごと支援体制の強化と「ちょこっと出先で生活相談」の実施など、さまざまな相談の場づくりの取り組みが行われてきたが、相談機関に話をするにそもそもハードルを感じる人もいるため、地域活動を行っている市民によるつながりも大切である。今後は、相談者と相談機関とのハブとなるような市民への情報提供のしくみも整えていく必要がある。
- 相談という看板を掲げている場では話しづらい人でも、市民のつどいの場だと気軽に参加できて相談につながる可能性もあるため、地域社協の中で行われている男の料理教室など、地域で開催される会合にも市民社協の地域担当職員が出向く必要がある。

### **重点的な取り組み3 地域社協の発展**

この取り組みを行うにあたり、市民の誰もが「地域社協」を知っていて、参加するまちを目指して、9つの「6年後の目指す姿」を示して、取り組んできました。

## 〔 取り組んできたこと・今後の課題 〕

- 「転入者が地域社協を知る機会」として、いくつかの地域では、転入者向けの地域団体の広報紙等をまとめたセットを作成して、対象となり得る方に配付した。今後は、転入者が参加しやすい企画を地域社協・市民社協の双方で検討するとともに、市役所窓口等、転入者に情報が伝わりやすい場での情報提供を引き続き検討する必要がある。
  - 「地域社協の活動の魅力の発信」については、11 の地域社協がXアカウントを開設し、SNSでの情報発信に取り組み、12 の地域が紙媒体を継続して発行している。今後もSNSでの情報発信を継続する一方で、地域内の掲示板の設置場所の拡大を目指すなど、デジタル媒体を受け取りやすい人・苦手な人の双方の視点で、効果的な情報発信を行う。
  - いくつかの地域社協では、「若年層（20～40代）を含めた地域社協の活動者が増加し、新しい視点を取り入れた活動を行っている」姿を目指して、広報紙やパンフレットに具体的な参加方法を記載したり、役員の体験期間を設定した。今後は、短時間の活動や負担感の少ないことから参加できるしくみづくりを検討する。
  - 「支援を必要とする人をサポートする取り組み」について、ボランティアセンター武蔵野が開始した生活上の困りごとを支援する「ねこの手ボランティア」や「ちょこっと出先で生活相談」などを通じて地域担当職員が困りごとを把握することで、対象者を必要なサービスにつないでいる。一方で、相談機関にいきなり話をするにハードルを感じる人もおり、自然と人を巻き込むしくみや、サービスの知識がある“ハブとなる市民”が必要という意見もある。
  - いくつかの地域社協では、「地域の他団体の事業、イベントとの統合、再編などを通じて、負担の軽減、人材の有効活用ができていく」姿を目指して、地域行事の統合や再編について、コミュニティ協議会（コミセン）や町会等と話し合いを行った結果、共催や複数の団体が参加する実行委員会形式でイベントを行うなど活動の整理が進んでいる。特にコミュニティ協議会と地域社協は、共通する地域の課題に取り組んでいることも多いため、連携について検討を進める必要がある。
  - 市民社協では、武蔵野市が行う災害時要援護者対策事業の支援団体として、令和5年度に市との意見交換会を実施した。また、「無事ですカード（※）効果検証ワーキング」を開催し、他市区の安否確認のしくみを視察し、参加した地域の課題解決に向けて話し合いを行った。今後の課題として、事業を請け負うことの負担や課題についての市と話し合いを継続していく。
- （※）無事ですカードは、練馬区の安否確認ボードを参考に、一部の武蔵野市の地域社協で作成。発災時に自宅前に掲出することで、ご近所同士で安否確認し合うことを目的とし、エリア内に配布した。
- 市民社協では、「地域担当職員によるきめ細やかな支援が行われている」姿を目指して、コロナ禍でも地域社協の運営支援を継続し、市民が会場に集まらなくても会議に参加できる方法として、Zoom講習会を提案したり、各地域社協のメンバーが集まる地域社協代表者連絡会等でオンライン開催を取り入れた。
  - 市民社協では、「地域社協の事務の簡素化」に関して、会計書類等のフォーマットの見直しや簡素化を行った。今後は地域社協に限らず、地域活動に参加する上でのハードルとなるような負担感の軽減を目指す。

## 重点的な取り組み4 地域福祉コーディネーター（仮称）の役割や機能の整理

この取り組みを行うにあたり、市民と一緒に取り組む地域担当職員の機能の充実について、武蔵野市における地域共生社会の実現に向けて、市民社協が担うべき役割を検討しました。

### 〔 取り組んできたこと・今後の課題 〕

- 市民社協では、地域福祉コーディネーター（仮称）機能設置に向けた取り組みとして、11 か所の市内関係機関へのヒアリング調査を行った。また、地域福祉コーディネーター（仮称）立ち上げ検討委員会を開催した。
- 検討委員会での協議の結果、既存の「地域担当職員」の機能を拡充し、以下の4つの地域福祉コーディネーターの役割を地域担当職員が担うこととした。
  - ①サービスや支援につなぐ
  - ②孤立している人を地域住民につなぐ
  - ③地域の課題を共に考える場をつくる
  - ④解決の仕組みをつくる
- 4つの機能を拡充を目指し、令和5年度より市内各所で市民の困りごと相談を受ける「ちょこっと出先で生活相談」を開始した。
- 今後は、武蔵野市における地域共生社会の実現に向けて、上の4つの役割のうち、「②孤立している人を地域住民につなぐ」や「課題に対応した新しい制度・しくみづくりの場」などの取り組みを強化していく必要がある。

## 2 地域懇談会から見えてくる課題

### （1）地域懇談会の実施方法

第5次活動計画の策定にあたり、地域課題やこれからの取り組みについてのご意見をいただくため、地域懇談会を市内の西部・中部・東部の3圏域でそれぞれ開催しました。当日はそれぞれの圏域の地域社協の方々のご協力のもと、延べ76名の方にご参加いただきました。このほか、地域社協のエリアごとで、地域課題やこれから取り組む目標を検討するべく、別途地域懇談会を開催いただいています。地域社協ごとの地域懇談会の実施報告は、今回作成する計画書（令和7年4月作成予定）に掲載予定です。

圏域	地域名		日時	場所	参加者数
西部	桜野	境南	令和6年 8月4日（日）	武蔵野プレイス4階フォーラム	19名
	境	関前			
東部	吉西	御殿山	8月18日（日）	武蔵野商工会館	33名
	東部	南町			
中部	千川地域	大野田	8月24日（土）	武蔵野市民文化会館	24名
	西久保	中央			
	四小地区				

### （2）地域懇談会の実施内容

#### ①課題の抽出の共有

第4次武蔵野市民地域福祉活動計画から残された課題は？

私たちのまちや暮らしの今の生活課題や問題は？

今後6年間で私たちが取り組むべきことは？

- ②課題を優先度でランキング化
- ③課題ごとに具体的な取り組み案を出す

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定のための地域懇談会

# 6年後の   地域を話し合う [2025>>>2030]

令和7 令和12

本日のメンバー      

本日の地域懇談会では…

- 私たちのまちや暮らしの今の生活課題や問題は？
- 今後6年間で私たちが取り組むべきことは？
- 第4次計画から残された課題は？

01 課題の抽出・共有

02 課題を優先度でランキング化

03 具体的な取り組み案を出す

Share! 全体共有

※地域懇談会で実際に使用したワークシート。これに付箋をつけて意見を出し合った。

### (3) 明らかになった課題（複数の地域から共通して出された課題）

地域懇談会の開催は、これまでの地域活動の振り返り、新しい地域課題に気づくなど、有意義な機会となりました。地域社協のエリアごとに現在の生活課題や問題と感じる点や今後の6年間で取り組むべきことについて話し合う中で、「地域によって特徴のある課題」と「複数の地域で共通する課題」があることがわかりました。以下の「複数の地域で共通する課題」は、第5次武蔵野市民活動計画策定委員会でも全市的な課題として検討し、後述の第5次武蔵野市民地域福祉活動計画（案）の取り組みの根拠となる課題としても取り扱っています。

#### 近隣とのつながり

- 隣近所とのつき合いが希薄。
- 若い人や新しい転入者とながれていない。
- マンション住まいのため、近隣との交流がない。また、地域団体側からもマンション居住者へのアプローチができず、悩んでいる。
- 私立学校に通う子育て世帯が地域活動に加わっていない。

#### 地域活動への参加

- 世代が代わったことで地域活動へのかかわり方も変化しており、地域活動への関わり方を改めたい。

一方で地域との関わり合いをもちたい人がどのような方法があるかわからない。

- 50、60代の参加が少ない。
- 仕事を持ちながらどうかかわれるか？
- 役員の成り手がいない。中心で活動してくれる人材を育てたい。
- さまざまな地域団体のどの会議に出席しても同じ顔ぶれになっている。
- 若い人は多いが、担い手に参加してくれる人がいない。

### 情報提供

- 地域社協はなにをやっているのかわかりにくい。子育て世代にあまり知られていない。
- 活動に関わる人が少ないが、どう募集したらよいか。

### 地域の高齢者に関して

- 独居高齢者が多く、ひとりで生活することが難しい人が増えている。高齢者への伝達不足をどうするか。（電話に出ないことや個人情報の壁がネック）
- 高齢者で働ける人へのボランティアや仕事の紹介。
- 一人暮らしの安否確認と見守り。
- 高齢者の外出が少ない。
- 老老介護が増加している。
- インターネットを利用できない高齢者が多い。
- SNSでの広報が活発になる一方で、SNSが苦手なシニア層は紙媒体の広報（チラシ、掲示板等）がないと情報が手に入らず、地域活動に参加できない。
- 高齢者が集まる場所が徒歩圏内にない（または遠い）。

### 災害時に助け合えるしくみづくり

- 災害時に近所同士が助け合えるしくみをつくりたい。
- 緊急時（災害など）のときにかかわれる関係性づくりが必要。
- 災害時要援護者対策事業の周知が必要。

### 同じ地域にある他団体との連携

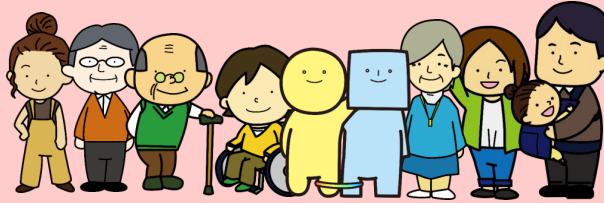
- 他団体とあまり連携できていない。
- コミセンを拠点とした他機関・他団体の連携が必要。
- 子どもから高齢者まで集まれる場所がほしいので、コミセンの活用を促進したい。

地域によって特徴のある課題や地域懇談会の実施報告の詳細は、  
右の二次元コードから「第3回策定委員会資料」でご覧いただけます。



## これまでの課題を踏まえて

令和7年度から取り組む新しい計画を策定しています！



### Ⅲ 第5次活動計画の概要

#### 1 基本理念

##### みんなが主役 ささえあいのまちづくりをめざして

本計画の基本理念は、「第2次武蔵野市地域福祉活動計画（平成16年3月）」から継承されているものです。市民一人ひとりが主体的に福祉のまちづくりに取り組むことで、ささえあいのまちづくりを実現させていくという想いが込められています。

#### 2 基本目標

- 1 地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう！
- 2 つながりたい時につながることができ、孤立する人がいない武蔵野市にしよう！

これまでの活動計画の基本目標とは大きく構成を変え、上の2つを基本目標として掲げることとしました。第4次までの武蔵野市民地域福祉活動計画で掲げてきた「地域をささえる人づくり」「ひとがつながる地域づくり」「たすけあいのしくみづくり」の視点を大切にしつつも、第5次武蔵野市民地域福祉活動計画で掲げる目標は「情報」と「つながり」の2つを大きなテーマとして整理しました。

1つ目の「地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう！」は、障がいの有無や国籍にかかわらず、「地域の活動に参加したい」「福祉の専門機関に相談したい」という市民が自らアクションを起こすために必要な情報を届けることを目標に掲げました。

2つ目の「つながりたい時につながることができ、孤立する人がいない武蔵野市にしよう！」は、「地域と密接につながりたくない人もいる」という第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会での意見から、時代の変化に合わせて、つながりたい時につながることができる、一方で「つながりたくない状態」であっても、孤立しないしくみづくりを目標に掲げることとしました。

これらの基本目標の達成のため、5つの取り組みを掲げ、「すべての市民」「活動に参加している人」「市

民社協「公共・専門機関」の4つの視点から具体的なアクションに取り組むことで、基本理念の達成を目指します。

### 3 施策の体系図

#### 基本理念

みんなが主役 ささえあいのまちづくりをめざして

#### 基本目標

1 地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう！

- （1）地域の活動に参加しやすい情報発信を行う
- （2）福祉の情報を受け取りやすくする

#### 基本目標

2 つながりたい時につながることができ、孤立する人がいない武蔵野市にしよう！

- （3）困った時に助け合えるしくみをつくる
- （4）地域で自然につながる
- （5）地域で一緒に活動できる仲間を増やす

# IV 全地域での取り組み

## 1 基本目標とその達成に向けた取り組み

基本目標：1 地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう！

取り組み：(1) 地域の活動に参加しやすい情報発信を行う

### 現 状

- 地域社協では、13 地域社協のうち、11 の地域が X（旧 Twitter）を開設し、12 の地域で紙媒体を継続して発行している。
- 市民社協では、インターネットを活用する世代に向け、ホームページ（スマートフォン対応）、Facebook、X、Instagram を「報告中心」や「お知らせ中心」など使い分けながら、情報発信を行っている。
- 地域社協では、複数がネット印刷によりカラー化したり、プロボノを活用してデザインを見直すなど、これまで参加していない人に興味関心を持ってもらえるようなわかりやすい表現を目指して取り組んでいる。
- ボランティアセンター武蔵野のボランティアキャンペーンは、中学生から社会人までを対象に、夏休みや春休みの期間でボランティア体験や福祉に関する学習ができるプログラムを実践している。

### 課 題

- ◆必要な市民に情報が届いていない。
- ◆高齢者や日本語に不慣れな外国人など情報弱者にも配慮した発信ができていない。
- ◆地域社協はなにをやっているのかわかりにくい。
- ◆情報発信媒体がチラシなどの紙媒体に限定されている。
- ◆SNS による情報発信が少ない。
- ◆SNS による地域活動の情報を受け取ることが難しい高齢者が多い。
- ◆受け取った側が「自分事」と考える情報になっていない。

### 実施主体別の課題解決に向けたアクション

すべての市民	●身近で行われている地域の活動の情報を、関心のありそうな人に伝える。
活動に参加している人	【SNS による発信と活用できない層への支援】 ●SNS による情報発信を行い、情報発信の媒体を増やす。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SNS を使えない人に使い方を教える。</li> <li>● 二次元コードを活用した広報媒体の作成。</li> <li>● 地域活動の魅力・参加するメリットを発信する。</li> <li>● 体験や見学なども取り入れることで、地域の活動に参加しやすくする。</li> </ul> <p>地域住民のつながりづくりを進める団体のアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域のことを「自分ごと」と捉えることができるような広報を発信する。</li> <li>● 市民が興味・関心を持てるような「楽しいこと」を発信していくことで、地域の活動に関心を持ってもらうきっかけをつくる。</li> <li>● 地域内に掲示板の設置場所を増やす。</li> <li>● 市民同士の LINE グループやポータルサイト(※)で地域活動の情報を発信できるしくみをつくる。</li> </ul> <p>(※)ポータルサイトは、インターネットにアクセスする際に最初に見るウェブサイトのこと。ここでは特定の地域の情報やコンテンツをまとめて発信している地域型ポータルサイトを指す。</p> <p>特定の課題に取り組んでいる団体のアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動の目的としている課題をより多くの市民が「自分ごと」と捉えることができるような発信を行う。</li> </ul>
市民社協	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報を発信する媒体を増やす。</li> <li>● SNS を使えない人が使い方を学べる場をつくる。</li> <li>● 情報を適切に入手したり、活用することが難しい情報弱者にも情報が届くよう、やさしい日本語の活用など対象者に合わせた情報発信を行う。</li> <li>● 内容をよく知らない人が見る（読む）前提での情報発信を行う。</li> <li>● 地域活動の魅力・メリットを発信することで、市民の関心を高める。</li> <li>● 地域団体の広報を支援する。（SNS の活用支援、プロモーション動画作成など）</li> <li>● 職員が市内のさまざまな場所に出向き、地域活動・団体への参加に関する情報を広げる。</li> <li>● 地域社協の名称が「地域社協」「福祉の会」と団体によって呼び方が様々で、同じような団体であるとわかりづらいため、活動者と共に、名称統一などの検討を行う。</li> </ul>
公共・専門機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報を発信する媒体を増やす。</li> <li>● 地域で実施されている活動を広く発信する。</li> <li>● 情報を適切に入手したり、活用することが難しい情報弱者にも情報が届くよう、やさしい日本語の活用など対象者に合わせた情報発信を行う。</li> <li>● 内容をよく知らない人が見る（読む）前提での情報発信を心がける。</li> <li>● 市窓口での転入手続き時に転入者向けに地域活動（団体）の情報を提供できるしくみを検討・実施する。</li> </ul>

基本目標：1 地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう！

取り組み：(2) 福祉の情報を受け取りやすくする

## 現 状

- 市民社協広報紙「ふれあい」は公募した広報委員による広報紙づくりに変更するとともに、地域の活動を紹介する記事や委員の取材記事を掲載するなど、構成を見直した。
- 市民社協では子どもが福祉活動に出会う機会として、福祉学習事業やこころのバリアフリー啓発事業で市内の小中学校に出前講座を行っている。コロナ禍では、障がいのある方や施設職員による対面実施が難しく、オンラインによる学習プログラムを行った。
- ある地域社協で、活動範囲内の分譲住宅への転入者を対象とした「ご近所のつどい」を開催し、防災の啓発を行い、その報告を広報紙に掲載して配布した。
- いくつかの地域社協では、転入者向けセットを作成し、エリア内の新築などの家に配付した。その中に、地域社協のX等の紹介を行い、最新の情報にアクセスできるような情報提供を行った。

## 課 題

- ◆インターネットを利用できない高齢者が多い。
- ◆福祉は専門用語やカタカナ用語が多く、わかりにくい。
- ◆多くの人々が日常的に利用する駅や公共施設などで地域情報が発信されていない。
- ◆情報が多すぎて選択できない、必要な情報を見つけられない人がいる。
- ◆情報が届いても、自分事と捉えていない人もいる。
- ◆福祉的な活動だけでは、福祉に関心のある人にしか情報が届かない等、拡散力に限りがある。

実施主体別の課題解決に向けたアクション

すべての市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の情報、福祉の情報を意識し、周りに情報弱者がいればわかりやすく伝える。(届ける)</li> </ul>
活動に参加している人	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報を適切に入手したり、活用することが難しい情報弱者にも情報が届くよう、やさしい日本語の活用など対象者に合わせた情報発信を行う。</li> <li>●それぞれの活動を行う中で福祉サービスや支援に関する情報を広げることで、困っている人に情報を届ける。</li> <li>●日本語を母語としない人々の参加がしやすくなるように、日本語と各国の母語を操ることのできる外国人住民の参加を促す。</li> </ul> <p>特定の課題に取り組んでいる団体のアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●団体の活動を通じ、福祉の情報を届ける。</li> </ul>
市民社協	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報を発信する媒体を増やす。</li> <li>●内容をよく知らない人が見る(読む)前提での情報発信を心がける。</li> <li>●情報を適切に入手したり、活用することが難しい情報弱者にも情報が届くよう、やさしい日本語の活用など対象者に合わせた情報発信を行う。</li> <li>●個人の興味に応じて生活に関する様々な情報が届くようなしくみ(アプリ・映像など)を検討する。</li> <li>●職員が市内(地域・学校など)に出向き、福祉の情報を広げる。</li> <li>●まちの色々な業種(事業所)と連携し、困っている人を発見したときに市民社協につながるなど、福祉の情報を伝えてもらえるようなしくみをつくる。</li> </ul>
公共・専門機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報を発信する媒体を増やす。</li> <li>●個人の知りたいことや困りごとに応じて生活に関する様々な情報が届くようなしくみ(アプリ・映像など)を検討する。</li> <li>●支援に関する様々な情報が常設で設置されており、必要な時に手に取ることができる場所を増やす。</li> <li>●市民社協とともに福祉の情報を広報する。</li> </ul>

基本目標：2 つながりたい時につながることができ、孤立する人がいない武蔵野市にしよう！

取り組み：(3) 困った時に助け合えるしくみをつくる

## 現 状

- 地域社協をはじめとする地域活動団体は、サロン活動や丁目活動、居場所づくり等の地域内での顔見知りを増やす取り組みを実施し、普段と様子が違っていたり、支援の必要がある場合には関係機関につないでいる。
- 市民社協では、令和4年度から地域福祉コーディネーター機能として、どこに相談したらよいかわからない方を相談機関につなげることや、地域活動の支援をする地域担当職員を配置している。
- 市民社協では、出向いて支援するという従来の特性を活かし、困っている人の生活に近い場所で相談を受けるため、令和5年度より、「ちょこっと出先で生活相談」を実施している。実施にあたって、各地域社協の助け合いのしくみにより、エリア内で支援が必要な人がいれば、つないでもらう等の協力をいただいている。
- ボランティアセンター武蔵野で、生活上のちょっとした困りごとをボランティアが短時間で支援する「ねこの手ボランティア」事業を行っている。

## 課 題

- ◆災害時などの緊急時に活かすための「平時から関係性の構築」が不十分。
- ◆近隣で助け合ったり、見守りをする「おせっかいをしてくれる人」が少なくなった。
- ◆近隣での助け合いに必要な個人情報を適切に取り扱うためのルールづくりが必要。
- ◆困った時に相談ができる場所がいくつもあるが、どこに相談に行けばよいかわからない。
- ◆市民社協の地域担当職員が地域に出て生活上の困りごとを受け止め、支援の窓口につなぐ「アウトリーチ機能」の体制が不十分。

実施主体別の課題解決に向けたアクション

すべての市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●身の回りで困っている人の存在に気づいた時、できる範囲で助け合ったり、支援の窓口を紹介する。</li> </ul>
活動に参加している人	<ul style="list-style-type: none"> <li>●緊急時・災害時に助け合えるよう平時から関係性の構築を意識する。</li> </ul> <p>地域住民のつながりづくりを進める団体のアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●生活の困りごとを助け合うしくみを地域の中に新たに築く。</li> <li>●気軽に集え、相談も受けられる場（サロンやイベント）をつくる。</li> <li>●地域活動を行っている市民が支援機関の情報やサービス等を把握し、必要な人に伝える情報提供の仕組みをととのえる。</li> <li>●課題がありそうなのに手助けを望んでいない人も地域でそっと見守る。</li> </ul> <p>特定の課題に取り組んでいる団体のアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域住民のつながりづくりを進める団体や市民と協力し、気軽に集え、相談も受けられる場（サロンやイベント）をつくる。</li> </ul>
市民社協	<p>【地域担当職員を中心とした困りごと支援体制の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域に出て、市民や地域団体とともに地域のニーズを受け止め、相談支援機関や地域のインフォーマルな資源につなぐ。</li> <li>●地域とのつながりがなく孤立している人を地域（住民）につなぐ。</li> <li>●制度やサービスで解決できないニーズは、地域や専門機関と一緒に解決策を検討し、新たな活動やしくみをつくる。</li> </ul>
公共・専門機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>●福祉専門職の採用・設置により相談支援担当職員の専門性の向上を図る。</li> <li>●複雑化・多様化する福祉課題への対応力を向上させるとともに、インフォーマルな資源と連動した支援のしくみをつくる。</li> <li>●市民が気軽に集える場（サロンやイベント）で相談を受ける機会をつくる。</li> <li>●相談を受ける場所をわかりやすく市民に紹介する（相談窓口のマップ化やオープンハウスの開催など）。</li> <li>●市民社協地域担当職員の機能拡充を支援する。（地域福祉計画にも記載）</li> </ul>

基本目標：2 つながりたい時につながることができ、孤立する人がいない武蔵野市にしよう！

取り組み：(4) 地域で自然につながる

## 現 状

- 地域社協では、「丁目活動」「ご近所のつどい」のような狭い範囲を対象とした活動や、防災・防犯のような世代を問わず関心を持ってもらえそうなテーマについて、各地域で工夫して実施している。たとえば、「おすすめの本」などを紹介する活動や福祉まつりなど楽しく参加できる活動を企画している地域もある。
- 第4次活動計画の重点的な取り組みに、「居場所づくりの展開」を掲げ、市民社協では世代や対象を限定せず近所の人が集うことを目的とした「身近な地域の居場所づくり助成事業」を推進してきた。平成28年の事業開始から、令和6年度までで18団体の立ち上げ支援を行った。
- 武蔵野市には吹奏楽が盛んな小学校・中学校が多く、大人世代も音楽をやっている人が多い。

## 課 題

- ◆若い人や新しい転入者とのつながりが少ない。
- ◆若い世代が必ずしも高齢者とかかわりたいと思っていない。
- ◆「誰もが集まれる居場所」では参加しづらい人もいる。
- ◆「防災」というテーマに関心があっても、人が集まらない。
- ◆防災や福祉など誰にとっても大事なテーマのイベントの中に、参加を促すような楽しく盛り上がるための仕掛けが少ない。
- ◆地域イベントは誰を対象にどのような効果があるか等、根本的に見直すような検証が必要。
- ◆同じ地域内でイベントの日程が重なっていることが多く、人が分散しやすい。
- ◆地域イベントは市報やSNSなどを活用した広域的なPRが少ない。

実施主体別の課題解決に向けたアクション

すべての市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ご近所づきあいや自分の興味があることなどを通じ、知り合いを増やす。</li> </ul>
活動に参加している人	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世代や対象に合わせて地域とつながるきっかけをつくり、地域の情報を発信する。</li> </ul> <p>地域住民のつながりづくりを進める団体のアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●SNSでイベント情報などを広く周知する。</li> <li>●老若男女が一緒に楽しく集えるサロンやフリーマーケット、音楽に関するイベントなどを実施し、多世代のつながりづくりをすすめる。</li> <li>●既存のイベントを市全体で見える化し、日程が重ならないような工夫をする。</li> <li>●人が集まりやすい地域の拠点となりそうな場所（美容院や床屋、フィットネスジム、学校など）を見つけ、活用する。</li> <li>●地域で自然に顔がつながる場、憩いの場づくりを進める。（例：町中のベンチ設置など）</li> <li>●情報を適切に入手し活用することが難しい情報弱者の人たちにも地域の行事やイベントの情報を届けられるよう、やさしい日本語表現や様々な広報媒体を活用する。</li> <li>●地域住民同士での密な関係性を控えたい人を巻き込む手段を検討する。</li> </ul> <p>特定の課題に取り組んでいる団体のアクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●団体が取り組む課題をベースに、防災や音楽など市民共通の関心・課題、面白さをプラスしたイベントを実施したり、情報発信を行う。</li> </ul>
市民社協	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域とつながる様々なしくみや、地域で発信されている情報の広報を行う。</li> <li>●防災など市民共通の関心・課題をテーマに、面白さをプラスしたイベントの開催や情報発信を行う。</li> <li>●企業や集合住宅の住民組織など、市民社協や地域団体と接点がない個人や団体に対し、地域福祉活動に興味を持ってもらうための働きかけを進める。</li> <li>●人が集まりやすい地域の拠点となりそうな場所（美容院や床屋、フィットネスジム、学校など）に働きかけ、地域活動をしている個人・団体とつなぐ。</li> <li>●地域住民と共に地域で自然に顔がつながる場、憩いの場づくりを進める。</li> <li>●地域住民同士での密な関係性を控えたい人もどう巻き込んでいくのか検討する。</li> </ul>
公共・専門機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域とつながる様々なしくみや、地域で発信されている情報の広報を行う。</li> <li>●市窓口での転入手続き時に転入者向けに地域活動（団体）の情報を提供できるしくみを検討・実施する。</li> <li>●属性を超えて交流できる場や居場所を確保し、市民同士の顔の見える関係性づくりを支援する。</li> </ul>

基本目標：2 つながりたい時につながることができ、孤立する人がいない武蔵野市にしよう！

取り組み：(5) 地域で一緒に活動できる仲間を増やす

## 現 状

- 地域活動団体では、実際に活動を担える人が見当たらず、人手不足が課題となっている。
- 新しい担い手として、「若い人」だけでなく、新しい転入者や子どもが私立の学校に通っているなど、まだ地域との接点のない「新しい人」の参加をどう促すかを考えるようになった。
- 地域行事の統合や再編について、同じエリアで活動するコミセンや町会等と話し合った地域社協があった。

## 課 題

- ◆50、60代の参加が少ない。
- ◆役員の成り手がいない。
- ◆活動に関わる人が少ないが、どう募集したらよいかわからない。
- ◆コミセンや地域社協の活動が市民に伝わっていない。
- ◆時間の経過とともに活動が「義務感」や「犠牲」になっているところもある。
- ◆続いてきた活動を今に合わせてどう変えるかが十分に検討できていない。
- ◆他団体とあまり連携できていない。
- ◆地域によって団体同士をつなぐハブ機能を果たしている団体が異なっている。
- ◆地域とつながらないでも商店を運営できるようになり、地域と商店の接点が減ってきた。
- ◆学生は活動に参加することが自身のスキルアップにつながりにくいと参加しない人が多い。

実施主体別の課題解決に向けたアクション

すべての市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域で行われている活動に関心があれば、一度参加してみる。</li> </ul>
活動に参加している人	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一人ひとりが得意なことを活かして地域活動に参加でき、負担が過多にならないようなしくみをつくる。</li> <li>●隙間時間での参加や、休日や夜間、学校の長期休暇などでしか活動できなくても参加できる体制をつくる。</li> <li>●一人暮らしや共働き世帯等、多様なライフスタイルに合わせて様々な形で地域活動との接点をつくる。</li> <li>●趣味など個人的なつながりから地域活動に参加するきっかけをつくる。また、地域活動から派生して趣味活動につながるなど、循環するしくみをつくる。</li> <li>●地域活動に参加してくれる人を増やすために、活動の見直しも含めて現状の活動を精査し、参加者のすそ野を広げていくことを検討する。(市民向けアンケートにより団体の必要性を問うことも検討する)</li> <li>●地域活動が評価されるしくみをつくる。また、そのために活動を知ってもらう機会を増やす。</li> <li>●地域活動の有償化についても検討する。</li> </ul> <p>地域住民のつながりづくりを進める団体のアクション</p> <p>【コミュニティ協議会と地域社協の連携をすすめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニティ協議会と地域社協の連携について検討し、共通する地域の課題に協力して取り組んでいく。</li> </ul>
市民社協	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域活動が評価されるしくみをつくる。また、そのために活動を知ってもらう機会をつくる。</li> <li>●多世代の地域活動デビューを支援していくことで市民の多様な活動機会づくりをすすめる。(地域福祉計画にも記載)</li> <li>●学校や事業所でのボランティア学習・福祉学習を推進することで、地域活動の担い手づくりを行う。(地域福祉計画にも記載)</li> <li>●実際に活動する市民と共に、地域活動の有償化についても検討する。</li> <li>●コミュニティ協議会と地域社協が共通する地域の課題に協力して取り組むための連携等について、双方に働きかける。</li> </ul>
公共・専門機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域活動が評価されるしくみをつくる。また、そのために活動を露出する機会をつくる。</li> <li>●市民社協とともに多世代の地域活動デビューを支援していくことで市民の多様な活動機会づくりの支援をすすめる。(地域福祉計画にも記載)</li> </ul>